

りべらしおん

研究所ニュース
No.44

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: fukuokajinkenken@happy.odn.ne.jp URL: http://www2.odn.ne.jp/fukuokajinkenken/

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い、またすべての人に行き届いた救急・救命、生活再建、地域の復旧・復興を祈念致します。私達もそのための努力を惜しみません。人間の尊厳に根ざした新しい日本をつくりましょう。

第七回 海外スタディ・人権ツアー

一月五日〜八日、韓国・済州島



積雪の済州4・3平和記念館前にて

悲劇の島

まだ、お正月気分もぬけない一月五日、早朝の福岡国際空港に一八名の団員が集った。参加団員は計二〇名。内二名は北海道からの参加で済州島で合流することになっていた。今回のツアーの目的は二つ。一つは一九四八年四月から一九五四年九月までに、島民の

十人に一人にあたる約二万五千人が当時の政権により殺害された「4・3事件」について学ぶこと。もう一つは戦争と済州島の関わりを知ることであった。済州島はかつて旧日本軍により島全体が要塞化され、至る所に戦跡が残っている。また、最近では海軍基地建設反対の住民運動が起きているところでもある。世界自然遺産を有し、韓国のリゾート地として有名な島であるが、虐殺や戦争の爪痕をのこした悲劇の島でもある。

語られ始めた「4・3事件」の真実

「4・3事件」は、事件から五〇年以上もタブー視され、多くの関係者は事を語ろうとしなかった。その背景には、南北統一を願って運動を起こした事件の被害者たちは「極端な左翼主義者」「赤」「暴徒」というレッテルをはられ、家族までもが就職や昇進時に厳しい差別を受けてきたことがある。関係者は家族を守るため、また残酷な出来事を思い出したくないという思いから口を閉ざし、事件は長い間封印されてきた。近年の政権交代により、ようやく二〇〇〇年に「4・3特別法」が制定され、二〇〇三年に当時のノムヒョン

大統領が公式に謝罪している。

団員の感想

そして、長い間封印された史実の掘り起こしが、民間の団体である(社) 濟州4・3研究所が中心となって現在もおこなわれている。今回のツアーで、あらためて権力とは、歴史の真実とは何なのかを痛感させられた。以下、団員の感想を紹介する。

飛行機の窓から見えてきた、初めての濟州



(社)濟州4・3研究所の皆さんと参加団員



魚雷格納庫 (松岳山陣地洞窟)

島。白い。あれっ、濟州島ってさんご礁の島だっけ。火山島じゃなかったっけ、と思っっている間に着陸。年に一、二回しか降らないという雪に迎えられた人権ツアー。
雪のトケビ道路や素朴な盛り土のお墓。雪深いハルラ山。雪に閉ざされた深い沈黙の中に、4・3平和記念館はありました。広大な公園と記念館、名前が刻まれた石碑。それらが語りかけてきます。権力によって人権が侵害されようとするとき、気づける私なのか、それはおかしいと声をあげられる私なのか、共に声をあげる仲間とつながっている(つながりをつくっている)のか、と。しかも、日本帝国主義による侵略の歴史と、その結果と

しての米軍統治を考えると、なおさらそこにつながる今を生きる「私」を問われていることを思い知らされました。
そして、日本による人権や生命の蹂躪を象徴するような、海岸線に回天を格納するためにつくられた松岳山陣地洞窟や日出峰の裾に点在する洞窟などの特攻基地。美しい海岸の黒い岩肌(のまわ)に鑿跡(のまわ)も生々しく大きな洞窟が海に向かって口を開けていました。そこを掘った人々、そこから回天に乗せられて片道切符の旅に出された人々やとりまく人々の人生を思いました。



旧日本軍がつくった飛行機格納庫 (アウトラル飛行場跡)

それでも、そんな人間の思惑などとは関係なく、自然は存在し続けています。全長一三四二二m世界最長の溶岩洞窟の万丈窟、城山日出峰などの世界自然遺産。地の奥底から吹き出した溶岩が流れながら固まったためにできた洞窟。噴火口の跡。その荒々しいエネルギーの跡に圧倒されつつ洞窟の中を歩きました。沖縄では沖縄戦のとき、ガマは住民や日本兵の命を包んでいたけれど、ここでは4・3事件のときハルラ山に籠った人々とスパイとなつて軍の中に飛び込んだ人々をつなぐ場所にもなつていたとか。



海女の識字学級 (海女博物館内の人形)



海軍基地反対を表したアワビや珊瑚のモニュメント (江汀村の海岸)

しかし、抗日記念館、海女博物館、私立のカマオルム平和博物館と保存された壕、そのような闘いの思いを伝える存在に出会うとき、「人間は微力であっても無力ではない」という言葉を思い出します。自分や自分につながる命を大切にし、おかしいことはおかしいと声をあげていく。その一つひとつの取り組みやつながりが今を支えているのだと思います。そしてそれが、今の江汀村の海軍基地に異を唱える人の動きになっていくのだと思います。「未来の子孫のために」と座り込みを続けておられる方が言われました。未来に私たちは何を受け継ぎたいのか、それを守るためにおかしな動きは止める、そのためにテントに集う人々。長期化する中で、経済的、体力的

に疲弊して、また先の見えない取り組みに疲れて、人が減っていきます。けれど、諦めない。一人でも二人でもゼロではない。そこに在る。村人二千人と政府の闘い、江汀は沖縄の辺野古と重なります。

「一番いいのは平和の会話、一緒に生きていこうという会話」とも言われました。武力に武力で対抗しても何も未来に誇れるものは残せません。辺野古のおじいやおばあも阿波根昌鴻さんの写真を掲げ、八年と千日を越える日々、静かに座り続けています。そこでの唯一の平和への道も対話。

諦めないこと、この旅で一緒にしたような大切にしたいことを共有できる仲間とのつながりを大切につくっていくこと、仲間と楽しく学び、知識や感性を豊かにすること。大切なことに気づかせてくれるこのスタディツアーは一度行ったら止められないのでした。感謝をこめて・・・ (会員)

(ツアー行程表)

- 一月五日ー 43 平和記念館、43 研究所
- 一月六日ー 松岳山陣地洞窟、アウトラル飛行場、カマオルム平和博物館、江汀村
- 一月七日ー 抗日記念館、万丈窟、海女博物館、城山日出峰、民族村博物館
- 一月八日ー 買物、帰国

●全国夜間中学校研究大会開催

〓二〇一〇年十二月二日～三日〓

「夜間中学校の実態から教育の課題を明らかにし、義務教育未修了者の人権としての学ぶ権利を保障しよう」をテーマに、第五十六回全国夜間中学校研究大会が、東京都江戸川区立小松川中学校を会場に開かれ、全国から一〇〇名を越える夜間中学校関係者が集まりました。

夜間中学校とは、十五歳以上の義務教育未修了者が、何歳からでも学ぶことができる公立中学校二部学級で、関東・関西を中心に全国に三十五校あります。

大会初日は早稲田大学教授、宮崎里司さんの講演に続いて、三人の夜間中学生が発言しました。大阪・岸城中学校生徒の金幸子さん(六十七歳)は、弟妹の子守のため十三歳から働き、小学校しか出ていないことや、在日韓国人であることにずっと劣等感を持ち続けていた。しかし、六十を歳を過ぎて夜間中学に入學し、生まれて初めて在日としての自分に自信が持てた、と語っていました。

二日目の分科会では、公立化を目指して運動している北九州や北海道などの自主夜間中学からの報告や、問題提起などがされ、全体会では、全国の義務教育未修了者の学ぶ権利を保障するための法制化に向けて、全国的に取り組む必要性などが提案されました。

●一二月四日

第一九回津屋支部文化祭

『リベラシオン』一三五号で紹介した青年達が活躍する部落解放同盟福岡市協議会津屋支部の文化祭が、二〇一〇年一二月四日(土)、津屋本町集会所にて行われました。吉田学支部長の挨拶に始まり、発表では、女性部のフラダンスや、三六年前に運動によって作られた多々良保育園の園児たちによる歌や踊り、青い鳥子ども会(小・中学生部)の活動報告、四支部合同青年部の年間活動報告、ひまわり学級の久留米(白山支部)・日田(高瀬支部)視察研修報告などが行われました。



四支部合同青年部(津屋・馬出・堅粕・千代第一)のパワーポイントを用了活動報告では、二月に福岡市総合図書館で行われた福岡部落史研究会創立三五周年(社)福岡県人権研究所設立五周年記念企画展「部落解放運動の原風景 福岡連隊事件と

高松差別裁判―松本治一郎・井元麟之旧蔵資料を中心に―を見学したことや、四月に堅粕人権のまちづくり館の原口孝博館長(社)福岡県人権研究所運営委員)の案内で、堅粕のフィールドワーク(および事前学習会)を行ったこと、夏に大分県の泉水キャンプ場や豊後高田の昭和の町を訪れ、町おこしの学習をしたり、各支部で持ち寄った食材で料理を作り(堅粕からは鶏塩、鶏スープ、じゃが餅、馬出からは鶏ハムなど)、お互いの親睦を深めたことなどが報告されました。堅粕のフィールドワークに引き続き、次年度は津屋のフィールドワークを企画中とのことです。

文化祭の最後は、津屋支部に関わる先生方で結成されたバンド「おやじーず」による「ケサラ」「あした天気になあれ」の歌で締めくくられました。

文化祭終了後は懇親会があり、おでんやおにぎりが振る舞われました。二〇一〇年五月に、北九州ホームレス支援機構とグリーンコープとの協働で、この地域に開所されたホームレス自立支援施設「抱樸館福岡」(定員約八〇人)の館長、青木康二さんらも懇親会に参加されました。青木館長によると、開所からすでに一三〇名ほどの方がこの施設を利用し、巣立っていったとのこと。外部からの視察も多いといいます。開所直前に吉田支部長が抱樸館の庭に寄贈し、地域みんなで植樹した桜も、春には満開に咲くことでしょう。

年頭の「挨拶」

(社)福岡県人権研究所理事長 森山 浩一

米国のリーマンショックに始まった百年に一度と言われる世界恐慌は世界の秩序を再編していくエネルギーです。日本列島もその渦の中を今年も泳いでいくことでしょう。

情報消費革命やアジア新興諸国の台頭が、第二次世界大戦前とは違いますが、秩序再編のエネルギーは同じです。金融恐慌・戦争がじわじわと押し寄せている予感をもって、新年を迎えたのは私一人ではないでしょう。

何としても、二度押し寄せてきた恐慌・戦争を阻止し、持続する人権文化の社会を創造する必要があります。恐慌・戦争はグリーンニューデール・循環型経済の活性化や外交努力と人権・平和世論の喚起により防止できるのではないのでしょうか。私たち(社)福岡県人権研究所は、反差別・反戦すなわち人権・平和の地道な研究と世論喚起を本気でやっていく必要があります、そこに研究所の存在意義があります。

私たちは厳しい戦争の時代にあっても信頼関係を持ちえた忘れられない歴史を持っています。部落解放運動の中です。一九四二(昭和十七)年、徳川家達郎に放火・全焼させ十七年間の刑務所から出所した浜嘉蔵さんを、松本治一郎氏ほか十数名は迎えに行きました。その一年後には、結婚の祝宴を催しているのです。浜さんは博多区の非部落出身であり、戦後晩年まで東京練馬区の解放同盟支部長をつとめたのです(井元麟之「老闘士 浜 嘉蔵さん」を想う)『部落解放史・ふくおか』創刊号、一九七五年)。しかも厳しかった時代の世話や葬式の世話まで松本英一氏は行ったと聞いています。

十三年連続して自殺者三万人を超え、うつ病が広がり、若者の就職難・内向化、無縁社会がいわゆる今日、このような究極の信頼関係に学び、同志の関係を取り戻す必要があるでしょう。

そのためには研究所内部も厳しい規律と努力がもとめられます。六月総会

で決まった活動方針を実現し、来期以降に向けての戦略的事業計画を策定する必要があります。

今年の研究所賀状では昨年の総括を述べましたが、事務所移転の中、会員増を含めてやってきました。会員・賛同者の皆様からの厳しいご指摘をお待ちしています。

今年も、戦略的展開への基盤づくりの年でしょう。年末の懇談会でも多くの意見が出ました。

(1) 機関誌・出版物の書店販売を含めた、頒布拡大を実現すること。「機関誌紙を読めば福岡県・九州の人権・解放の姿が読める」編集内容の実現。

(2) 会員・賛同者が事務所へボランティア参画する体制の実現。開かれ・活性化する事務所。

(3) 行事や大会参加の重複を避け、役割分担による事務局体制の強化・確立。

(4) 運営資金の確立に向け、増えつつある受託事業をさらに増加させる。

(5) 昨年増えた会員・団体会員を職域・分野・主催行事ごとに呼びかけ、さらに拡大する。

二〇一一年(平成二十三年)は、数千年続いた中国の専制君主制が幕を閉じた辛亥革命後百年の記念の年でもあります。新幹線開通で九州・アジアとのつながりもさらに活発化することでしょう。

本年が皆様にとって、そして研究所にとって飛躍の年なることを祈念いたします。

本稿は本年当初に発表する予定で提出されていましたが、本紙の刊行が遅れたため時機を失した感があります。執筆者・読者にお詫び致します。(編者敬白)



森山さんの近著
2011年2月28日 福村
出版 5,300円+税

●ボランティアを募集しています。

研究所の日常業務の中で、所員や役員だけでは手が足りないことがしばしばあります。そういうときのために、ボランティアで短時間でも協力できる方の名簿を用意し、ご助力を求めることができれば、効率もあがり、たいへん助かります。もちろん、たまたまその時に時間の空いている方でもかまいません。ご協力いただける方のお申し出をお待ちしています。

●身近に研究所入会や、『リベラシオン』の定期購読をご希望の方がありませんか。会員や定期購読拡大にもぜひご尽力願います。

新会員紹介

【個人会員】

- 勝山吉章 (福岡市城南区)
- 有松しづよ (田川郡福智町)
- 西尾達 (福岡市早良区)
- 瀬片泰子 (福岡市西区)
- カンボジア地雷撤去キャンペーン (福岡市早良区)
- 大西祥恵 (福岡市早良区)
- 向井厚子 (田川郡川崎町)
- 佐藤ますみ (直方市)
- 的場隆幸 (福津市)
- 山口園美 (北九州市小倉北区)

●新会員の声 (日比野裕司さん)

Q 研究所をどこで知られましたか？また、入会の動機は？

知人のさそい。九州での人権活動の状況を認識したいから。

Q プロフィール、興味のあること。

北海道はアイヌ民族の問題があります。これからもそのことにちからを入れていきたい。

Q 趣味など。

今回の済州島の人権ツアーなどに参加できたら、人権問題の研修に取り組みたい。

Q その他

福岡と北海道では少し距離がありますが、部落問題をはじめとした人権教育をアイヌ問題と共通の問題として取り組んでいきたい。

●会員おすすめの本●

※いずれも研究所で購入できます。

『無年金—金がないのに生きていくその哀しみと喜び—』

在日コリアン無年金福岡裁判を支援する会



編、大野金繁
聞き書きと
写真
二〇一〇年八月、書肆侃侃房、一五〇〇円十税

いわゆる「無年金福岡訴訟」の日々を生きてきた原告の、暮らしとアイデンティティを聞きとった『無年金』は、苛烈な歴史の中で素朴に生きた人々の姿を写し取っています。リベラシオン一四〇号の特集で報告された「在韓日本人妻たちの六十五年」と、あたかも背中合わせのような人々の姿は、私たちの国がなした事柄の後始末を、個々の人生に押しつけた無残な結果を改めて私たちに突きつけています。暮らしの断面を映した写真も、貴重な資料です。(西川義夫)



『わらいがおがイイオトコ 教員樋口輝幸—軌減らしの教育実践の軌跡—』
自主出版。
二〇一〇年十一月発行。頒価一〇〇〇円

熊本県の「同和」教育運動の先駆者として人間解放に生涯をかけた高校教師 樋口輝幸先生の生き様を記した本ができました。また、九州部落史研究においても史実を掘り起こし研究をされてこられました。

本書は、「同和」教育の創生期からの実践の記録、「障害」のある子の進路保障にむけて共に生きた実践、熊本県部落史の研究、「定時制の灯を消すな」運動の闘い、そして、教育競争原理と闘った家族の葛藤「白紙答案の訴え」などで、「同和」教育の原点を知ることができます。教育者であり、実践者であり、研究者であり、それにとどまらずその生き方を父として、一人の『にんげん』として自然体で生き抜いた人でした。その生き様から『学ぶこととは、生きること』と実感し、心を揺さぶられる一冊です。(海野学)

●部落史研究部会

四月十六日(土) 十四時〜十七時
辰島秀洋さん(会員)の発表です。

・資料紹介 田川郡の明治・大正期における土地・寺院・教育をめぐる資料
会場 福岡県人権啓発情報センター
(ヒューマン・アルカディア)

JR春日駅前クロアバープラザ7階

●会員の本の紹介

『現代教育の諸相』

小川哲哉・勝山吉章・井上豊久編、二〇一〇年四月、青簡舎、二〇〇〇円＋税

第1部 現代教育の動向

第2部 学校教育の現状と課題

第3部 教師教育の今日的課題

(全一五章から成る)

編者の勝山吉章さん(福岡大学人文学部教授)が会員、執筆者の柳井美枝さんが本研究所員です。

勝山さんは第2章「わが国の教育改革の動向」、第9章「教育改革と学校教育への影響」、柳井さんは第10章「夜間学校の教育課題」を執筆しています。

●二〇一一年度総会

六月十九日(日)午後に予定しています。

*会場・記念講演など詳細は未定です。追ってお知らせ致します。

●海外人権ツアー関連本の紹介



『濟州四・三』

濟州四・三研究所編、許榮善著、及川ひろ絵・小原つなき共訳、二〇〇六年十月、民主化運動記念事業会発行(ソウル) 定価六〇〇〇ウォン(六〇〇円) ※本に記載のママ

「韓国現代史において朝鮮戦争に次ぐ多くの人命被害を生み出しましたが、その事実は、痛ましい傷を隠したまま、長い間、私たちにとって記憶されない歴史となってしまうました。」(日本語版の発刊に寄せて)より)

お知らせ

このたびの東日本大震災においては、本研究所会員松本龍さんが、未曾有の大被害の中、防災担当大臣として救援を指揮し、職責を果たされています。

研究所日誌 (2010年12月～11年2月)

- ・12月 1日 (水) 絵本『三発目の“原爆”』第2刷納品
- ・12月 3日 (金) 第0回松本治一郎・井元麟之研究会
- ・12月 5日 (日) 北九州市「ふれあいフェスタ2010」参加
- ・12月 6日 (月) 事務局会議
- ・12月13日 (月) 事務局会議／研究所ニュース「りべらしおん」43号発行
- ・12月18日 (土) 第29回九州地区部落解放史研究集会総括会議
- ・12月20日 (月) 事務局会議／運営委員会／
「部落解放運動の原風景・北九州展(仮)」実行委員会打ち合わせ(北九州市)
- ・12月21日 (火) 啓発部会＋第163回定例研究会
- ・12月24日 (金) 「解放新聞」笠松編集長来所
- ・12月25日 (土) 『リベラシオン』139号発行
- ・12月27日 (月) 事務局会議
- ・12月28日 (火) 仕事納め／済州島人権ツアー事前学習会／会員懇話会・忘年会
- ・1月 5日 (水) 仕事始め／～8日第7回海外人権スタディツアー(韓国・済州島)
- ・1月 6日 (木) 「史実と授業の結合をめざして」打ち合わせ(久留米市)
- ・1月 8日 (土) 部落解放同盟福岡市協議会旗開き
- ・1月11日 (月) 部落解放同盟福岡県連合会旗開き
- ・1月13日 (水) 事務局会議／「八女市市民意識調査」第1回会議
- ・1月17日 (月) 事務局会議
- ・1月24日 (月) 事務局会議／運営委員会
- ・1月25日 (火) 人権プロジェクト石瀧塾(糟屋郡須恵町)
- ・1月26日 (水) 「八女市市民意識調査」第2回会議／第4回執行理事会
- ・1月28日 (金) 第1回松本治一郎・井元麟之研究会
- ・1月31日 (月) 事務局会議
- ・2月 5日 (土) 編集委員会
- ・2月10日 (木) 事務局会議
- ・2月12日 (土) 啓発部会
- ・2月14日 (月) 運営委員会／韓国金仲燮(キムチュンソプ)教授来所
- ・2月18日 (金) 「八女市市民意識調査」第3回会議
- ・2月19日 (土) 「史実と授業の結合をめざして part III 第1回 in 久留米」
- ・2月21日 (月) 事務局会議
- ・2月22日 (火) 人権プロジェクト石瀧塾(糟屋郡須恵町)
- ・2月25日 (金) 第2回松本治一郎・井元麟之研究会
- ・2月26日 (土) 部落史研究部会＋第164回定例研究会／県同教実践交流会(図書販売)
- ・2月27日 (日) 外国人部会
- ・2月28日 (月) 事務局会議

お詫びと訂正 前号(No.43)の「りべらしおん」2ページ5行目に、「豊州炭鉱で起こったガス爆発事故で中元寺川の川底が陥没し」と記載しましたが、「ガス爆発」でなく「前日来の豪雨により川底が陥没し」の誤りでした。お詫び致しますとともに、ここに謹んで訂正致します。ご指摘ありがとうございました。